

弘前市協働によるまちづくり推進審議会 会議録概要 (第4回)			
日 時	令和2年9月28日(月曜日) 18時00分～19時45分		
場 所	弘前市役所市民防災館3階防災会議室	傍聴者	4人
出席者 (19人)	委員 (14人)	佐藤会長、生島会長職務代理者、 野口委員、下山委員、秋元委員、小山委員、 大西委員、安田委員、鴻野委員、大塚委員、 八木橋委員、斎藤委員、青山委員、柴委員	
	執行 機関 (5人)	市民協働課	高谷課長、竹内課長補佐、 中村主幹、田澤主査、小山主事
会議概要			
1. 開会			
2. 議事			
答申内の市の取り組みへの改善に向けた提案について(検討)			
【各委員の意見等】			
<p>会 長：前回までの審議会で、今年度の諮問事項「学生力が発揮されるまちづくりの推進のための取り組み」として、企画課からは市総合計画に載っている学生による地域活動の推進について、もう一つは、事務局から市全体の学生との関わりについて説明を受けて、皆さまからいろいろなご意見がありました。今日は、改善に向けた提案の素案について審議し、さらに内容が豊かになればいいかなと思っております。まず、「1 当市の学生力(学生の特徴)への理解」は、学生力を生かしたまちづくりということですから、マイナスイメージの学生力や特徴ではなく、積極的に肯定的な学生力に絞りました。足りない面や表現方法、タイトルの表現などについて、自由なご意見をいただき、より良いものにしていければと思います。いかがでしょうか。〈意見なし〉</p> <p>では、次に2ページの「2 学生に対する市の基本姿勢」については、いかがでしょうか。</p>			
<p>委 員：(2)は、後半部分が非常に大事だと思いますが、「活用するという視点だけでなく」が引っかかります。つまり、活用するという視点を前提としたうえですよね。ここは敢えて、後半部分を強調するならば、「視点で</p>			

はなく」という「NOT」にしてしまうということもあるだろうし、さらに言うならば、よりここを弘前らしさや学生が育つまちみたいに、社会参加を通じて育つまちみたいなイメージにしていくとすると、「視点よりもむしろ」とかに置き換えていくというふうにして、そういう接続の仕方もあるのかなと思っています。「視点だけではなく」というと、活用する視点に加えて学びにするということですよ。「活用するという視点ではなく」も考えられるかなと思いますし、よりもっと強調していくのだとすると、「視点よりもむしろ」にしていくとか。私は、活用という言葉はあまり好きではないので、無くしたほうが良いと思いますが、「ではなく」を残しておくという視点も考えられるので、答申として、どこまで「活用」を生かすかをもう少し検討してもいいのではないかと思います。

会 長：いかがでしょうか。後半部分が大事だということですね。

委 員：（１）で、「学部、学科の特性を生かした学生力の活用」って、活用がそもそも勘違いしているのではないかと思います。この表現は、なにも協働じゃない。それならば、普通に「学部、学科の特性を生かした学生との協働」が良いのではないですか。活用という言葉自体がそぐわないと思います。

会 長：他にいかがでしょうか。それでは、このような代替案でいかがでしょうか。「（１）学生との協働」という表現にする。（２）で大事なものは、「事業への参加を通じて」だから、「学生を活用するという視点だけではなく」を削除して、「各事業等で学生と関わる場合は、事業への参加を通じて」でいかがでしょうか。

委 員：そのほうがスッキリする。

会 長：よろしいでしょうか。それでは、このようにしたいと思います。次に『３学生への弘前市や「まち（弘前）づくり」に関する情報提供』ということで、ここでは「まち（弘前）づくり」というふうに、「まち」と言っても、みなさんいろいろな場面を想定するのではないかと。まちづくりは、

弘前をつくることだということで入れてありますが、このことも含めてご議論いただければと思います。弘前が入るとわからなくなるとか、あるいはあったほうがいいのか、どうでしょう。「4 学生の附属機関委員への参加」も、いかがでしょう。

委員：3行目の「学生の登用を検討すること」。様々な特性に配慮し学生の登用を検討することとあるのですが、その後に「学生委員の導入にあたっては、学生枠の設定のほか、公募委員の中に学生も可」と書いてあり、仮に後者のほうをとった場合に、選ばれるのは学生委員ではなくて、公募委員の属性が、偶然学生だったということになります。ですから、「なお、学生の登用にあたっては」ということのほうが、この文脈に合うのではないかと思います。もしくは、もっと具体的に言うと、「学生枠の設定のほか」というのを「学生委員の設定のほか」というふうにしてもいいのかもしれないですけど。学生委員の設定のほか、公募委員のなかで学生の応募も可というふうにするのもあり得るかと思います。

会長：特にご意見ありませんか。そのほうが、わかりやすいかな。

委員：学生委員の設定ではなく、学生委員枠の設定。

会長：登用にあたっては学生委員枠。もう一回言いますと、「特性などを考慮したうえで学生の登用を検討すること、なお、学生の登用にあたっては、学生委員枠の設定のほか」ということでよろしいでしょうか。

委員：事務局に確認です。この「学生も応募可」は、弘前市内の大学に在学しているけど、居住地が例えば浪岡や黒石市の学生でも、特段構わないのですか。

事務局：はい。条例でも、弘前市内の大学に通っていれば、学生ということで捉えています。

委員：わかりました。確認でした。

会 長：この4番について、他に付け加えることありますでしょうか。

委 員：今後検討すべき部分の話になりますが、実際に、これを学生自身が見ると、学生の成長の場と捉えて、応募も出てくると思います。そして、応募が多数になった場合の選考基準は、学生も納得できるような形で選んでもらえるといいと思いました。応募が、いっぱい増えるといいなと思いますが、選んでいく過程のところも、併せて考えていったらいいのかなと思ったところです。

会 長：どうもありがとうございました。事務局の対応をよろしくお願いします。今、重要なお指摘をいただきました。次に、『5 学生の「まち（弘前）づくり」事業への参加』について。先ほどもありましたが、弘前というのを入れることについては、いかがでしょうか。

委 員：わかりやすくするためだけで見ると、弘前が入ったほうが良いように思いますが、基本になるのはまちづくりであり、一つの言葉なので、間に弘前を挟まないほうが、むしろわかりやすいと思います。他にも全体を見ると、括弧で補足しているところがありますが、とても細かい所まで気を配って書いていただくことによって、少しわかりにくくなるかなと思いました。まちづくりとシンプルに書いたほうがいいのではないかと思います。協働によるまちづくり基本条例ガイドブックを見ると、括弧付けで弘前というの無いので、表記を統一したほうがいいのではないかと思います。例えば、口頭で補足する時は、まちづくりが弘前づくりというふうに表現してもいいのではと思うのですが、文字で見る時は、同じように書いてあるほうが、いろいろな人がわかりやすいと思います。

会 長：こういう点については、一人でも反対の意見があれば採用しないで、「弘前」を取りましょう。括弧も全部、それ以外のところも。続きまして、その他はいかがでしょうか。

委 員：今の件ですが、弘前を取ると、とてもスッキリすると思います。学生のまちづくり事業への参加、この事業も要らないですね。学生のまちづくりの参加でよいのではないかと。他にもありますが、ことさらに事業

だけをここに持ってくると、事業のことがあってみたいになるので、この事業も不要な気がします。

会 長：いかがでしょうか。いいと思います。他にも、事業が付かないと意味がわからないようなものは別として、基本的には「まちづくりへの参加として」で、どうでしょうか。

委 員：(2)の『「企画・提案・実践」への参加』のところを読むと、労働力だと思っていたのかなとなってしまうのではないかと思います。企画・提案・実践に参加して、最初から最後まで関わる仕組みを検討してほしいというところが大事なので、ここは要らないのではないかなと思います。

会 長：じゃあ、「学生に対しては単なる労働力の提供を求めるのではなく」を取りましょう。

委 員：そこも事業ではなく、まちづくりへの企画・提案でいいのではないですかね。

委 員：まちづくりのことが最初から最後までわかるように企画・提案・実践に関わる仕組みということ、たぶん言いたいのだと思います。

会 長：これは、学生と市民との協働、学生と市との協働です。単なる労働力というか、アルバイトやボランティアというのもあり、肉体でやるという参加の仕方もありますが、できれば学生が、まちづくりの企画から提案、実践、その全部に関わっていくような事業をもっと増やそうという趣旨ですね。

委 員：これはどうでしょう。「まちづくりへの企画・提案から実践まで関わることができるような仕組みを検討する」

会 長：はい。いかがでしょうかね。その他は、いかがでしょうか。

委 員：「(3) わかりやすい募集内容」について、1 ページ目で「学業で得た専

門知識や、様々な特技がある」を学生力として謳っているのですが、ここを読むと、イベント毎に様々あるので、専門的知識がなくてもいいです、どうぞ参加してくださいという意味だと思います。あまり細かく書きすぎて、ちょっと矛盾するような気がします。逆に、みなさんの力が必要です、まちづくりに参加してくださいなど、学生側からわかるような告知にして、すっきりしたほうがいいのではないかなと思います。

会 長：わかりました。ちょっと文章が、つながってないかもしれないですね。

委 員：定義ではないですが、学生力に学業で得た専門知識や様々な特技があるということ、私たちの理解としているので、ここは全部取ってもいいと思います。とにかく皆さんの勉強している中身が、まちづくりのために必要ですというふうに、すっきりした告知や募集要項を心がけましょうということだと思います。

委 員：例文を削除して、例えば細かいターゲット層。ちょっと微妙ですけど、細かいターゲット層に配慮し、適切な表現を工夫すること。参加募集時の表現を適切な表現を用いることみたいな感じにするということですね。

委 員：様々なターゲット層。

委 員：「様々な」とかであれば大丈夫。

会 長：市が実施するイベント毎に参加の難易度や様々なターゲット層に配慮し、適切な参加者募集の工夫をすること。そのような形で検討していただいてもよろしいでしょうか。その他は、いかがでしょうか。

委 員：(4)の「学生＝ボランティアではなく」とありますが、ボランティアも有償と無償があって、ここでは無償ボランティアのことだと思うので、「学生＝無償ボランティアではなく」にしたほうがいいのではないかと。ということと、(5)も大学コンソーシアムなどのパンフレットに書くのであれば、そういうことを言いたかったのかってなると思います。文章を

丁寧に書くことによって、逆にわかりにくくなっているところがあるので、例えば「結びつきたい際の相談窓口について、問い合わせ先がわかるよう」を取り、「学生や教員が目にする機会が多いような資料に情報提供するよう検討すること」などにしたほうがいいと思います。情報提供することで、問い合わせ先がわかるというのが、ちょっとくだいのではないかと思いました。もう一つは、先ほどから出ている「活用」とか「労働力」の問題ですが、一つ考え方として取ってしまうこともあると思うのですが、一方で市役所がそういう認識でいるのだとすれば、その認識を改めなきゃいけないことを強調するために、残しておくという選択肢もあると思います。この審議会での市の説明は、その言葉が使われていたので、むしろ市政として変えていくとすると、意図的にそこを置き換えて残して、労働力ではなく、活用ではなくというふうに残しておく、市職員や我々の認識を変えていかななくてはいけないということを提言することになるかと思います。削除してしまえば、すっきりして、すごくプラスな感じの答申にはなると思いますが、そこは少し考えてもいいのかなと思いました。

会 長：いかがでしょう。

委 員：それもちゃんと書いたらいいと思います。全体の書き方では、学生の活用と学生力の活用だと意味が違うので、学生の活用という表現は不適切だと思います。学生力の活用であれば、これはあります。例えば、これまでは学生を労働力とみていたけど、言い方を改めましょうという提言にするのであれば、この審議会の前提としておいて、例えば1番とか、1番の更にその前の前項として、今度から学生を育てていくという目線でみるから、労働力や無償ボランティアという視点ではなく、育てるという視点で活用するという前提を置いて、学生力とは何か、学生と市民との協働においてどのような基本姿勢をとっていくのかが、まちづくりに対してこういう情報提供をしていくとか。これからについては、否定を入れないでこういうふうにしていくこと、こういうふうを検討すること、こういうふうにするこって、シンプルにしていけば良いのではないかなと思います。丁寧に詳しく書こうとすることで、なんとかのためと書いているがゆえに、かえってわかりにくくなっているっていう文章

構成があるので、労働力とみないことや、無償ではなく学生を育てるに
するというのは、まず審議会の前提としておいてやっていく。企画の参
加、わかりやすい募集案内、金銭面での配慮、相談窓口の周知とあって、
こういうふうにするということだけを端的に簡潔に記せば良いのではない
かと。あと、5番の結びつきたい際の相談窓口という日本語もおかし
いと思います。問い合わせ先がわかるようにその情報を掲載してくだ
さいと言えれば良いのではないかと思います。

会 長：ここの表現をもう少し簡潔に、言いたいことは何なのかをね。教員や学
生が市を結びつきたいってというのは、どういうことだろう。協働を望む、
希望する。

委 員：各大学の教員や学生からのまちづくりに関する相談窓口みたいな。相談
窓口についての情報を教員や学生が目にするのが多い資料に掲載する
ことを検討することですよね。

委 員：どこに問い合わせたらいいかわかるように情報掲載をしていく。相談窓
口ではなく、問い合わせ先が明確になるような情報の提供の仕方とか、
情報掲載を検討していく。

会 長：相談窓口ではなく、市と一緒に協働してやりたいと思った場合にどこに
行ったらいいのかが、わかりやすく掲載するってということですか。

委 員：各大学の各も要らないと思います。

会 長：大学でね。要は、協働したいと思った時の窓口は、企画課でやっている
けれども、そういうことを外の人にはわかってないから、周知する方法を
もっと検討することという趣旨で組みなおしたいと思います。次に、『6
学生による「まちづくり」を育む支援制度』について。

委 員：5の（4）で、金銭面の配慮ということでございますので、「ボランティ
アじゃなくて」でもいいのかと感じます。イコールですから、学生は
全部ボランティアじゃないかなって解釈にも見えます。

会 長：学生は金銭面に余裕がないと決めつけていいのかなって。「金銭面に余裕が無い」を削って、「学生の特徴のひとつとして」云々っていうのを削って、学生＝無償ボランティアではなくってというのは、一般的にそうなっているけど、そればかりではだめだよと。アルバイトとしての参加や支払いも積極的にやっていくべきではないですかという提案になるかと思いますが、我々の提案として適切かということも含めて、いかがでしょうか。

会 長：無償は入れたほうがいいですか。

委 員：無償ボランティアとありますが、それが授業だった場合はどうなりますか。これだけを推し進めていくと、なるべく皆さん金銭を払いなさいよってなると思いますが、大学側としては授業の一環という場合もあると思うので、その線引きはどのようにすればよいのでしょうか。

委 員：たぶん、ここで言うボランティアは、個人で地域活動に関わるとか、イベントの人員になるとかだと思うのですが、授業の中で地域活動に関わりながら何かをやるとなった場合は、必ず単位が付きます。そこは、学びの一環ですから基本的にお金は発生しないと考えています。また、金銭面に余裕が無いことがあげられるためと決めつけているのは、ちょっと引っかかるところです。基本的に1ページ目で学生の特徴を出したうえで、その後の議論があるわけですが、ここだけ学生の特徴を踏まえたうえでという形になっています。私の案としては、学生の特徴の一つとして金銭面に余裕が無いことがあげられるためっていうのは、他の文章との整合性を考えた時に削ってしまっているのではないかと、ただ、一方で1のところには何かそれに関することを入れてもいいのではないかと思います。その時に、お金がないと言うとネガティブになるので、例えば経済的支援を受けている場合が多いとか。

会 長：特徴というと良い面も悪い面も全部入ってくる。我々が考えているのは、諮問事項ですので、学生力は肯定的なほうだと思います。そういう意味で、ポジティブな表現に統一しました。

委員：実は、この当市の学生の特徴の「特徴」っていうのが、最初から引っかかっています。これは魅力ですよ。これはネガティブなものが無いので、学生の魅力だと思います。

会長：学生が持っているポジティブな力をまちづくりにいかに使ったらいいかということが、我々の諮問事項なので、特徴を取り、学生力で統一する。学生力は肯定的なことです。それで調整していきたいと思います。

委員：(4)は、文頭は無くてもいいと思います。「学生＝無償ボランティア」ではなくから始まってもいいと思います。

委員：文章の中にイコールは、馴染まないの、ちゃんと日本語で書けばいいと思う。だから、学生のまちづくりへの参加については、無償ボランティアに限らず、アルバイトとしての参加や、成果に対する報酬。

会長：学生の特徴云々はカットして、「学生のまちづくりについては無償ボランティアに限らず、アルバイトとしての参加」にすれば。みなさんからいろいろ指摘が出たと思いますので、生かしたいと思います。

委員：金銭面への配慮の「金銭面」っていうのが、どうもちょっとあまりにも直接的過ぎて。何か適切なものがないかなと。このタイトルは、例えば経済的な配慮とかにしたほうがいいかもしれません。

会長：経済的な配慮、いいですね。

委員：もしくは、対価への配慮みたいな。

委員：対価と書いてしまえば、そもそも無償ボランティアを認めないことになってしまう。いや、例えば「単位を取る」っていうのもあるかもしれない。やっぱり対価はおかしいね。

委員：「募集時の配慮」っていうのはどうでしょう。参加するためには募集しな

くてはいけないですから、こういうことに配慮しなさいという。

委員：配慮であれば、わかりやすい募集もみんな配慮だけど。ここではあくまで経済的なことを言っている。

委員：最後の「積極的に検討する」っていうのは「適切に検討する」でいいのではないかと思います。

会長：確かに、積極的だと必ずみたいになってしまうので、検討すべきですね。いろいろご意見出ましたので検討させていただきたいと思います。最後に、7番いきましょうか。

委員：とりあえず、(1)の各大学の「各」は要らないと思います。

委員：(1)は、学生グループやサークル団体の町会や市民団体に対してですが、双方の情報提供にはならないのでしょうか。(2)にマッチングとあるので、両方の情報提供にしないと、一方的じゃなくて。逆に学生側から、こういうことをやっている地域団体はないですかという問い合わせとかで書いたほうがいいのではないかなと思います。(2)がそのマッチングであるとか、そういう事例を紹介してというふうにつながっていくと思います。

会長：(1)は、学生から市民団体への情報提供だから。双方向になるような表現を検討すると。

委員：(3)で、「学生の事例について広く紹介するよう努めること」と、ここでは逆方向で書かれていますよね。

会長：(3)は連携協働の事例を紹介しろということなので、(1)とダブってくるんですよ。(1)は、双方向で検討してみたいと思います。(3)は、事例を紹介することが大事だと思いますので、事例を広く市民に紹介することということできたいと思います。それから、ここでいう地域っていうのは何ですか。市民活動団体とは違いますか。

事務局：主に町会をイメージさせていただいて、地域という表現にしました。

会長：（２）は、学生と市民活動団体のマッチングしやすい仕組みについて検討し、市民団体と学生が繋がりやすい仕組みということ。つまり、地域という概念が急に出てきて曖昧だよね。市民活動団体も広く言えば地域団体だから地域になる。ちょっと検討させていただきたいと思います。

委員：（１）の２行目は、町会や市民活動団体になっているけれども、（２）では学生と市民活動団体、（３）になると学生と市民活動団体、そして地域と市民活動団体と。町会なのか地域なのかがわかりにくい。

会長：町会は、巨大な力もあるし、みんなが面的に包み込まれているわけですよ。ね。（１）の町会や市民活動団体に対しては、地域じゃだめだよ。タイトルを受けてくれば、町会や市民活動団体と学生のほうがいいですね。（３）の町会や市民活動団体、町会がものすごくクローズアップされていますが、よろしいでしょうか。

委員：もちろん市民活動団体が、町会じゃないですから、分けて書いても、通りがいいのではないかと思います。

会長：町会が入っていてもよろしいでしょうか。ここはむしろ町会と。

委員：町会と市民活動団体を分けていいと思います。先ほど、（１）は、双方向性がないという話があったので、それを加味すると、（１）と（２）は、たいして変わらなくなると思います。（１）と（２）はドッキングさせてもいいのではないかと。つまり、マッチングできるような仕組みを作り、情報提供が行えるような環境を作るということです。そして、町会と市民活動団体も生かせばいいと思います。

会長：地域という言葉は町会や市民活動団体、町会に置き換えれば全部共通してきますので、地域という概念を今回は使わないということですね。それから、（１）と（２）を合わせた文章にしたらいいいという意見を踏まえ

て、ここは検討したいと思います。さて、ひととおり最後までいきましたが、全体を通して、何かお気づきになったことはありますか。

委員：5の（4）金銭面への配慮は、タイトルをボランティアとしての扱いとか扱い方にしてはどうでしょうか。ボランティアの考え方とか。

会長：ボランティアとはどういうものなのかっていうことを考え方。ここは、みなさん引かかるようですね。

委員：金銭面とか経済面とかってという言葉を出したくないと思いました。

委員：単純にボランティアへの配慮っていう感じ。いいかもしれないね。無償であれ、有償であれ、その活動としてのボランティアとしての配慮。ボランティアも無償ボランティアに限らずって言っているわけだから、お金を払わないってことじゃない。

会長：単純に「ボランティアについて」で終わり。ここは、要するに、タダ働きさせるなって趣旨だけれど、それを上手く。

委員：参加への配慮っていうようなのではどうでしょうかね。参加にあたっての。参加への配慮。活動への参加ですよ。

会長：これは次回に持ち越しましょう。どうやって露骨じゃなくするかってことだと思います。

委員：もしかしたら項目を並べ替えるとどうでしょう。（1）学生の参加促進の見出しは、「市主催の」は要らないかなと思っています。文中に市が主催するまちづくりに関する人材を育成する講座とあるので、（1）人材育成講座への学生の参加促進で、次にわかりやすい募集案内、そして企画提案実践へのトータルの参加、そして相談窓口の周知、最後が配慮になれば、そこには例えばボランティアへの配慮でも参画にあたっての配慮でも、何かその経済とか金銭、対価って具体的な言葉を出さなくても、その参加学生への配慮という項目で、一番の最後にすることにより、そう

いう配慮をしてくださいという米印的な立ち位置に置くことができるのではないかと思います。

会 長：わかりました。企画提案と募集案内をひっくり返してね。順序からすればそういう感じになりますよね。

委 員：(4)のタイトルですが、参加学生への対応でどうでしょう。つまり、対応の仕方は無償ボランティアに限らず、アルバイトその他ですよ。

会 長：ここは結論が出そうにないので、次回改めて伺いたいと思います。他にいかがでしょうか。

委 員：1番の学生力ですが、括弧も記載するのでしょうか。例えば、③「柔軟な発想力がある。(しがらみがない)」とありますが、ここは要らないのではないかと思います。例えば、⑦「出身地が多様である。市街居住者も多い」とありますが、例えば、市街居住者を含め、出身地が多様であるなど一文にしてしまうとか。⑨も流行に敏感だということを記載すればいいので、括弧は要らないのではないかと。

会 長：⑦は、「市街居住者も含め出身地が多様である」。これでいいですかね。なるべく括弧を取る方向で検討したいと思います。③柔軟な発想力。しがらみがない。柔軟な発想力よりも、しがらみのほうが広い概念だよ。これは無いほうがいいかもね。なるべく括弧を削る方向で。

委 員：1万人っていうのを書きたいのであれば、①に1万人いるっていうので1つの項目にしてしまうのもありかと思います。「または」というよりもポジティブな表現になるかと思います。

会 長：学生が1万人もいるんですね。すごいな。いいですね。

委 員：マンパワーという言葉が、労働力なんですよ。ここではポジティブに言うのであれば、あまりいい感じでもないの、独立させて、一定の人口がいるというのもありかと思います。1万人いるという。

会 長：マンパワーは取りましょう。その他ありますか。

委 員：①から⑬という番号は、何か意味があって並べているのですか。例えば、力的なところと精神が豊富とか、チャレンジ精神とか発想力など関連性のあるところをまとめて。最終的に、私が1番大事だと思うのは「次の子育て世代で活躍する」「次の弘前市のまちづくりを担っていく」というところで、落としどころと言うか、それに繋がるのかなと思うので、少し並べ替え、見せ方に工夫すると、学生はこういうことなんだなあとすんなり入ってくると思います。

会 長：わかりました。その他、よろしいですか。

委 員：この番号が要らないかもしれないです。順番がついているような感じがします。並べ方もですけど、「・(ポツ)」でもいいかなと思いました。

会 長：これは番号ではなく、「・(ポツ)」にして、なおかつ関連して同じ側面を表現しているようなものを整理したほうがいいかもしれない。それでは、今日ご指摘いただいたことを整理して、次回は答申書の全体とこれを加えて、ご検討いただくことになります。いろいろご意見いただいて、ありがとうございました。

3 事務連絡

4 閉会